

早いもので、期末考査も終わりあと一週間程で夏休みを迎えますが、みなさんにとってこの一学期はいかがでしたでしょうか。年度当初に立てた目標に少しでも近付けたでしょうか。長～い夏休み、勉強ばかりしてはダメ！たまには遊ばないと。英語のことわざに“All work and no play makes Jack a dull boy.”というのがあります。勉強ばかりして全く遊ばないと、ジャックはダメな少年になってしまいます。この一学期を十分に反省し、有意義な夏休みを過ごしてもらえればと思います。そして、新たな気持ちで新学期が迎えらることを願っています。

## 人権教育映画上映会を開催（5/29）

〈人権啓発ビデオ〉 ともに生きる私たちの未来  
～「部落差別解消推進法」がめざすもの～ 〈2017年度制作／38分作品〉



本校では、隔年で人権教育講演会と人権教育映画上映会を実施しており、今年度は人権啓発ビデオを鑑賞しました。

2016年12月に、部落差別の解消を目的とした「部落差別解消推進法」が施行されました。この法律が制定された背景には、後を絶たない部落差別がネット社会の中でますますエスカレートし、人権侵害が深刻化している現実があります。ネット社会の中で新たな局面を迎えている「部落差別」について学び、「ともに生きる社会」をどう実現していくのか、一人ひとりが考えました。

以下に生徒の感想を簡単に紹介します。

- ★今回の上映会で、部落差別のリアルな現状を知った。差別を受けた人がそれをなくそうと努力している姿も印象的だった。（1年生女子）
- ★部落差別を無くすために様々な人が努力されていて、その中の一人の方が「部落差別はその地域で住んでいる人が悪いのではなく、周りの人が理由を付けて差別しているのが悪い」とおっしゃられていたが、私も本当にその通りだと思った。（1年生男子）
- ★「部落差別解消推進法」をしっかりと調べて、間違った考えを持たないようにします。家族とも話をしたりして考えを深めていきたいと思う。（1年生女子）



- ★部落差別を知りたくて調べても、変な動画がたくさん出てくるだけなのかなと思った。ネットで調べるときは、どの情報が正しいのかちゃんと見極めたい。（1年生女子）
- ★部落差別は現代化してきており、SNSを利用し動画やツイートで広がってきているんだなと思った。また、どんな教育をやっているかも、なかなか消えることがない厳しい現実もよく分かった。（2年生女子）
- ★部落差別を受けた経験がある若い世代の方々が、「自分が何とかしなくては…」という気持ちで大学で講演されたり、色々な施設を訪れ出前授業をされたりと積極的な行動に胸を打たれた。（2年生男子）

- ★被差別部落出身が理由で差別され、自分の体を傷つけたり、自殺してしまう人がたくさんいることを知ると、ものすごく悲しい気持ちになった。自分には何もできないのかと無力さに腹が立ってくる。何かできることがあると思う。それを自分で探して実践につなげていきたい。（2年生男子）
- ★被差別部落の住所をネットでさらし、その情報を誰にでも見られるようにしたことは、今まで差別解消のための活動を続けてきた人たちの努力が水の泡になってしまうと思った。（3年生女子）
- ★今までの人権教育の中で一番前向きで明るい内容だったと思う。それでも未だに苦しんでいる人がいるのには変わりないとは思ったけど、差別されている人と差別されていない人同士が関わりを持つことで、少しずつ部落差別がなくなっていくのではないかなと思った。（3年生女子）
- ★被差別部落出身だから嫌な思いをするだけでなく、部落出身だから学べたこともたくさんあると思う。映画の中で紹介された方々の活動は決して無駄ではなく、多くの人に伝わっていると思う。私もその一人だ。その思いを決して忘れることのないよう、今後も人権委員として活動を続けていきたい。（3年生女子）

## 人権教育ホームルーム活動研究授業を開催（6/6）

6月6日（木）に、人権教育ホームルーム活動の研究授業を開催しました。各学年1クラスのみ公開となりましたが、大洲・喜多地区の中学校や高校、地域の関係機関の方々、保護者の方々に大勢来ていただきました。

1年生は、「差別の現実に学ぶ（Ⅰ）」というテーマのもと、1組はよりよい人間関係作りのために、違いを認め合うことの大切さを考えました。また、「差別」と「区別」の違いについて議論し、「差別」が許されない行動であることを理解しました。2組は視覚障がい者について理解を深めました。また、障がいを持つ人と共に生きる社会を実現するためには何が大切かを考えました。



2年生は、「人権の歴史（Ⅰ）」というテーマのもと、部落差別の起こりやその歴史的背景を正しく理解し、差別に屈せずたくましく生きた人々の姿から、自らの在り方や生き方について考えることが大切であるということを実感することができました。また、賤称語の重みについても理解を深めることができました。



3年生は、「差別の解消（Ⅰ）」というテーマのもと、就職差別解消への取り組みとして、「全国高等学校統一用紙」や「就職差別につながるおそれのある項目（14項目）」について学習しました。その後、模擬面接を実施して差別を見抜く力を身につけることができました。また、「答えない・書かない・提出しない」勇気を持つことが大切であることを学びました。



ホームルーム活動終了後、各学年ごとに批評会を行いました。6月14日（金）には残りのクラスのホームルーム活動を実施しました。どのクラスも真剣に取り組んでいました。参観された皆様、大変ありがとうございました。（人権教育・教育相談課 尾田）